



札幌開成中等教育学校特別講義「プレ先端科学特論」「先端科学特論」を実施[4ページに関連レポート]

北海道医療大学はどこに向かうのか？



北海道医療大学 学長 浅香 正博

学長に就任してから1年が経過いたしました。4年前に設置されたリハビリテーション科学部は、今年初めての卒業生を送り出すことになります。初めての国家試験を多くの卒業生がパスすることを心から願っています。

また、2015年12月、札幌あいの里に在宅医療の原点として創設された地域包括ケアセンターは、地域の方々役に立つ訪問看護や居宅介護を提供することを出発点に順調な歩みを続けているところです。

社会医療法人カレスサポートとの連携はさらに進み、昨年4月から、地域医療連携推進法人の設立に向けて打ち合わせを続けています。これが実現すると本学は学生の大きな研修先を確保できることになり、急性期医療から在宅医療に至るまで医療の全てを学生に経験してもらうことが可能になります。このことにより、より深く効果的な多職種連携教育を実現し、一層勉学に励んでいただけることを期待しています。

そして、「2018年問題」として認識されている、18歳人口の減少がいよいよ来年に迫ってきています。本学は医療系総合大学というアイデンティティーの明確さもあって、2018年問題に対する危機感が

他大学より薄い印象があります。しかし、受験生の絶対数の不足は本学にとっても大きな問題であることは事実であるため、優秀な学生を確実に入学させるために何をなすべきかについて本学の教職員の皆さん一人一人が自分の問題として是非考えていただきたいです。私は、北海道医療大学を全国ブランドの大学に飛翔させることによって多くの地域から受験生を集め、この危機を乗り越えたいと考えています。

開学50周年を7年後に控え、「2020行動計画」後の新しい中長期計画の策定に取りかかろうと思っています。既に各学部からのご意見を拝聴しようとアンケートの準備を進めており、入学者の確保、教育の質の向上、学生の学習力の向上、国家試験対策、国際化および地域連携について各学部の考えを集約。それをベースにして本学の新たな中長期計画を検討していく予定です。アンケートの返答を学部長に任せきりにするのではなく、各学部の構成員の一人一人が知恵を出し合って、将来の北海道医療大学をどのような方向に向かわせるのがよいのかを考えて欲しいと思っています。今年は本学にとってきわめて重要な年になると思いますので皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

CONTENTS

北海道医療大学はどこに向かうのか？	1
新任教員・昇任教員紹介	2
定年退職される先生からのメッセージ	
札幌市立高等学校との連携事業	4
「看護職・リハビリ職体験学習プログラム」実施	
札幌開成中等教育学校特別講義	
「プレ先端科学特論」「先端科学特論」を実施	
札幌北高等学校インターンシップの実施	
2017年度入試結果速報	5
認定看護師研修センター修了式を実施	
同窓会活動状況	6
リハビリテーション科学部 井上恒志郎助教が	8
明治安田厚生事業団「第33回若手研究者のための健康科学研究助成」を受賞	
薬学部 二瓶裕之教授、	
心理科学部 西牧可織助教が、	
私立大学情報教育協会の	
「ICT利用による教育改善研究発表会	
平成28年度 奨励賞」を受賞	
学友会の活動について	
第9期 SCP(学生キャンパス副学長)が	9
決定しました	
私の学生時代	10
OB訪問【臨床心理学科】	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	